

# 竹早

1999

No.10

## 会報



[同窓会]

東京府立第二高等女学校  
東京都立竹早高等学校

篋会報 1999年/10号

発行日:平成11年4月23日

発行:篋会

東京府立第二高等女学校同窓会  
東京都立竹早高等学校同窓会  
東京都文京区小石川4-2-1  
東京都立竹早高等学校内

編集:篋会会報編集委員会

印刷:株式会社ニットー印刷所  
東京都文京区千駄木3-22-11  
電話 03-3821-0210

### 会報編集委員

委員長:角掛 隆(高校10回生)

委員:小沢 悦(高校3回生)

高木萬里子(高校3回生)

向井 正昭(高校4回生)

山廣 俊雄(高校7回生)

須藤 彰久(高校8回生)

壺田 容子(高校8回生)

加川美津子(高校9回生)

駒見 宗信(高校9回生)

長谷川 純(高校9回生)

平野 隆史(高校9回生)

渡辺 悦子(高校9回生)

関 文隆(高校10回生)

池田 明子(高校11回生)

近藤 裕美(高校22回生)

渡辺 信博(高校22回生)

### 表紙挿絵

柳沢 悦子(高校9回生)

### レイアウト・デザイン

駒見 宗信(高校9回生)



平成11年度

# 「篁会総会」開催のご案内

2000年の創立100周年に向け  
下記の通り篁会総会を開催します  
皆さんお誘い合わせのうえ  
ご参加下さい

## 日時

平成11年6月5日(土)  
受付開始:10時30分より

## 内容

総会開催:11時00分  
総会閉会:12時00分  
懇親会開催:12時10分  
(ハワイアン演奏)  
懇親会閉会:14時30分

## 会場

(財)国際文化会館  
東京都港区六本木5-11-16  
電話:03-3470-4611  
総会会場:2階・講堂  
懇親会場:1階・レセプションルーム

## 会費

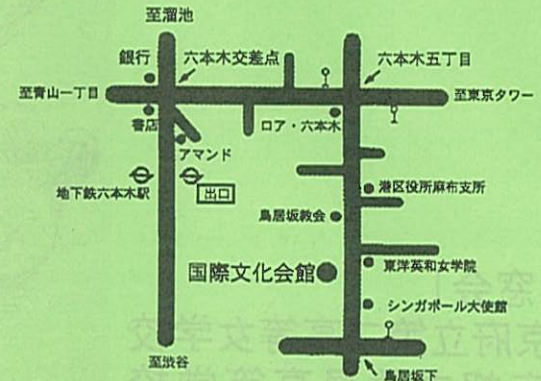
7,000円ただし学生は2,000円  
※参加者のみ同封の葉書にて  
5月21日(金)までにご返信ください

## 幹事

今回:高校9回生・30回生・50回生  
次回:高校10回生・31回生・51回生

## 交通機関

- ・新橋より  
麻布台通り渋谷駅行バス(渋88)にて六本木5丁目下車 徒歩5分
- ・渋谷より  
麻布台通り東京駅行・東京タワー行バス(渋88)  
いずれも六本木5丁目下車 徒歩5分
- ・信濃町、青山1丁目より  
田町駅行バス(田70)鳥居坂下車 徒歩3分
- ・地下鉄日比谷線  
六本木駅下車(出口3)徒歩10分  
※駐車場設備が極めて限られておりますので  
上記交通機関をご利用下さい



## お蔭様で

篁会 会長  
城戸崎 愛



昨年、皆様には百周年記念行事に御協力をお願いして  
から、あつという間の一年が経ちました。その間、新し  
く着任された中込勝英校長先生をお迎えして、母校は  
健やかに活発に歩み続けており、たのしい限りでござ  
います。

この一年、篁会もお陰様であちこちで人の輪が広が  
り着々と記念行事の基礎を固めつつあります。取材・編  
集準備と忙しいお仕事の合間にこなして下さってる先  
生方、会員の方々、又、久々に母校に通い篁会報の軌跡  
をたどり懐かしみながら整理して下さった戦前の卒業  
生達、一方、それを細かく分類し大変な作業を、休日返  
上でコンピューターを駆使して纏めて下さってる新入  
会員、在校生の人達と皆一丸となって頑張っております。  
又、一年振りに湘南篁会と関西篁会の総会に出席さ  
せて頂き、松本会長、河合会長、会員の方々の積極的な  
御支援に勇気づけられ帰って参りました。

この様に一年を振り返り、皆様に御報告出来ました  
事を、ここに心から感謝しお礼を申し上げます。

過日、私はふっとテレビのチャンネルを廻すと、突  
然、実に笑顔の清やかな聡明な青年の顔が映し出され、  
その話し声に思わず画面に引き込まれたのでした。「五  
体不満足」の著者・乙竹洋匡君。生きる目的を持ち自分

の使命をきちんと把握し、自信を持って前向きに生き  
ている若者。孫のような彼から大切なものを頂き感動、  
涙しました。暗い世相にうんざりしていた矢先、勇気づ  
けられ教えられました。生命の尊さ、生きる目的を持つ  
て自分の使命を見極める事を。心身共に健康でありた  
いと一途に願っている私の出来ることと言えば、矢張  
り料理の仕事でした。

年の始めに「NHK教育テレビ四十周年感謝の集い」  
出席した時の事、「人生を豊かに文化を育むチャンネル」  
として、二十一世紀に向けて次世代である若者達に夢  
と感動を与え、豊かな心を育む事を強化したいと言わ  
れたのでした。

私もほんの一部に参加している者として改めて真剣  
に自分の使命を痛感しております。食の在り方が、今の  
日本人に落としている影、しかもその影がぞつとする  
ような暗さ、悲惨な事件が起こるたびに、私は食との関  
わりを考えずには居られないのです。物と心の接点で  
ある「食べ物」、これからの私にとって気の遠くなるよ  
うな課題ですが出来る限り頑張ります。「感謝を忘れず  
に」

皆様もそれぞれの課題を胸に良い日々を重ねてお過  
ごし下さるよう願って止みません。

# 百周年記念事業実行委員会から

式典 西暦2000年(平成12年)11月18日(土) 式典後祝賀会 ※会場は検討中  
記念誌 西暦2001年(平成13年)発行予定(募金協力者に贈呈)

## 〈百周年記念誌編集が進行中です〉

百周年記念誌の編集は、現在同窓会・教員の編集委員によって着々と進んでいます。卒業生のボランティア等、頼もしい支援はありますが、沿革史(学校の歴史)を書くための基礎資料の不足が大きな障害となっています。竹早高校の前身である府立第二高女が、府立女子師範に併設され、後に女子師範が国立となって東京学芸大学に統合されていく過程で、両校に共通していた資料が学芸大学に移された可能性があります。現在学芸大学でも調査中ですが、未だ十分な資料は見えていません。

## 〈同窓会報・学校新聞が貴重な資料〉

こうした資料不足の現状では、会報に載っている学校日誌や、学校新聞の記事が、大変貴重な資料になります。下記の号をおもちの方は、是非、ご連絡下さい。また、その他の資料についてもご協力下さい。

## 〈記念文庫に著書のご寄贈を!〉

図書室に記念文庫の書架が設けられ、すでに100冊以上の卒業生の図書が並んでいます。図書委員会に依頼して、在校生向けに図書の紹介をしてもらう予定です。様々な分野で活躍する卒業生の存在を、この記念文庫で在校生に知ってもらい、時代を越えた出会いが生まれることを期待しています。自費出版の本も歓迎です。ご寄贈下さい。

## ●以下の資料が足りません

同窓会報「たかむら」「篁」

2・7・48・54・55号

卒業アルバム

高女1~10・14・15・24回卒

生徒会新聞

昭25~30年

(3・5・10・11・12・16・20・22・27号)

昭32~35年、昭38~43年分

昭43~47年

(95・96・98・100・101号)

昭50年以降は発行されていたかも不明です。

文集・行事の記録等

学校生活がわかるものは何でも貴重です。

## ●「100周年記念誌通信」を発行しています。

(平成9年11月より月刊)

ご希望の方は返信用封筒に宛名を書き、

120円切手を貼ってお申し込み下さい。

インターネットでも読むことができます。

東京都立竹早高等学校 百周年委員会

(坂原・細田)

〒112-0002 東京都文京区小石川4-2-1

TEL 03-3811-6961

FAX 03-3812-3565

## 〈百周年記念コーナー開設〉

昨年の9月から竹早高校の校舎の一面に、狭いながらも展示コーナーを設け、沿革と、記念の品々を展示しています。お近くにお越しの際は、お立ち寄り下さい。

## 〈篁基金からの援助始まる〉

篁会館の解散に伴い、公益信託篁会館記念教育活動援助基金(略称篁基金)の援助が平成10年度から始まり、毎年270万円相当の物品が10年に渡り竹早高校に寄贈されることになりました。記念文庫、百周年展示コーナーの他、校内に姿見の鏡、ベンチ等が寄贈され、在校生は改めて同窓会の存在を印象づけられました。百周年に向けての雰囲気づくりに大変有効な援助をいただき、学校も委員会を組織して、よりよい活用方法を検討しているところです。

## 〈出会いを広げる百周年に〉

これまでの実行委員会の活動を通して多くの卒業生の皆様、旧教職員の皆様と様々な形で交流が深まっています。「百周年記念誌通信」の発行も14号を数え、新しい交流の契機にもなっています。百周年に向けた活動が、新たな出会いや再会の場となつて、同窓会の活性化につながれば幸いです。

百周年実行委員

坂原(笠井)富美代 高校17回

## ※お問い合わせは資料収集担当まで

西村 章子(高女44回・昭和19年卒)

中村 倭文子(高女44回・昭和19年卒)

高木 萬里子(高校3回・昭和26年卒)

向井 正昭(高校4回・昭和27年卒)

角掛 隆(高校10回・昭和33年卒)

高校窓口 ☎03(3811)6961

坂原富美代(高校17回・昭和40年卒)

細田 裕美(高校28回・昭和51年卒)

## ○インターネットでの掲示板

<http://www2.tky.3web.jp/takechaya/>

★現在、明治から終戦までの沿革史や、資料の一部・写真等を掲示しております。ご利用下さい。E-mailで担当との直接情報交換も可能です。

## 歴史と伝統を生かした 国際教育の推進を

竹早高等学校校長

中込 勝英



竹早高校に着任して、早くも一年になろうとしています。前任校が伊豆七島の一つ、神津島にある神津高校といったこともあり、文京の地にあつて、都立高校でも有数の歴史と伝統を誇る竹早高校に大変緊張して着任したことを、昨日のように覚えていきます。入学式での生徒達の態度やその後の様々な学校行事を通して私が強く感じたことは、竹早生はさすがに良いものをもって育ってきた思いや業績が、脈々と受け継がれていることです。

眼に定かに見えることではありませんが、それが存在することは確かです。伝統校のありがたさであり、貴重な財産でもあります。こうした歴史や伝統を受け継いでいくことが、今の私達の使命であることを自覚させてくれます。

今、都立高校も大変な変革期にあります。時代や社会の激変は教育環境の変化として学校の変革を求め、企業社会と同じように、生き残りをかけての戦いでもあります。竹早高校は教育目標の自主自立の精神の涵養を人間形成のバックボーンとしつつ、進路指導の充実

と国際理解教育の推進を本校の特色として、より鮮明に打ち出していくことが当面の課題であると受け止めています。

幸いにも、来年はいよいよ百周年を迎えます。同窓会・教師と父母の会の協力を得て、百周年記念事業の準備が着々と進んでいます。篁会の城戸崎会長をはじめ、理事の皆様にはこれまで何度もご足労をおかけし、大変感謝しています。皆様方の経済的、精神的ご支援のお蔭で準備委員の先生方も大変多忙の内にも懸命に準備に当たっています。これからは記念誌の準備と共に、記念式典や記念祝賀会等の準備にとりかかることとなります。篁会館の公益信託基金による百周年記念展示室も、その役割を果たして雰囲気づくりに寄与していき、また皆様方の寄贈図書も図書館の一隅の位置を占めるようになりました。

過去の歴史や伝統を振り返る度に、先輩達の偉大さに圧倒されることが多いのですが、この百周年記念にしっかり取り組むことで、これからの本校のあり方を考える良い機会としたいと念願しています。今後とも篁会の皆様方のご支援をよろしくお願い致します。

### スポーツの盛んな学校

神谷 美喜子  
(高女三十一回甲・昭和六年卒)

創立百周年を迎えられる母校、おめでとうございます。

私共が在籍した五年間は、何分にもスポーツの盛んな学校でした。マラソンの金栗四三先生が女子もスポーツをということで、お若い上山先生、三浦先生、小野田先生方が熱心に指導下さって、私共は我を忘れてバレー・バスケット・テニス・陸上に熱中したものです。中でも庄巻は、昭和四年三月の春休みに挙行された九州遠征でした。金栗先生の肝煎りで、バスケット・バレー・テニスの総勢二十数名に、先生方三名のチームで、岡山では県立女学校で各試合。市電の横腹に竹早軍来ると横断幕が張られ、今のような新幹線もない時代でしたので、夜行列車での出発でした。福岡に二泊、そこでも歓迎を受け、次は熊本県立女学校の寄宿に泊めていただき、バレー・バスケット・テニス各々試合。次の鹿児島と一同元気に試合。熊本に戻り阿蘇を徒歩にて現在の草千里を火口まで歩き、栃の木温泉泊り。別府に出て船で神戸へ、そこで先輩方の歓迎を受け京都見物という、当時では珍しい団体遠征ということでした。

大正の終り頃には、バスケットのフリースローでアメリカより賞を貰い、バスケットボール大の置物がしばらく学校の体育の部屋に置かれていました。今でも学校にありませんでしょうか。バレーボールは、明治神宮大会(現国体)に準優勝する等、バスケットもその後関東大会等でご活躍、竹早の名をスポーツ界に響かせました。陸上では百米・二百メートルに神宮大会に出場等、当時人見網枝さん方とも同じトラックで走ることもありました。

テニスでは、時事新報社の全国大会に年少の組で優勝する等、又、国体にも出場後に井上(岡田)、神谷(林)、朝長(新納)の三人で硬式テニスに移り、全日本毎日新聞大会関東支部大会にてカップを総なめにしましたのもよい思い出です。井上さんは今もお元気で女子連の会長としてご活躍、後進のために頑張っているらしいです。朝長さんは、戦後しばらくの間、ダブルスの名手としてご活躍。竹早の三羽鳥といわれたものでした。お転婆もそこまでのよう、後は又、質実剛健の校風に戻りましたそうでございます。

今でも竹早は校舎の敷地が狭いですが、当時は高女と師範と同居ということもあって、なおさら運動場は狭いものでしたが、精一杯暴れ廻った府立第二時代でした。秋の運動会は、上井草の運動場で二日ばかりで催されました。今考えますと、先生方のご苦労も大変だったこととお察しいたします。暴れん坊の生徒はここまで、全員がグラウンドに出ている訳ではありません。それぞれ学問の分野に全力で若さを集中なさっていました、その当時は未だ共学でない中、それぞれ女子の専門校に進まれた方も多くあり、竹早の名は質実剛健の名のもとに皆さん活躍されていきました。百人中他界された方もあり淋しくなりましたが、年に一・二度は集まって昔を懐かしんでおります。

あのヒマラヤ杉、特徴ある講堂のつくりは、今も目に浮かびますし、学校の前には御徒町から大塚へ行く都電が走り、現在この道に都電がと思うほど今では狭く感じます。学校の隣には公設市場なるものがあり、その八百屋のおじさんが、バナナを差し入れて下さったり、前は大野屋文房具屋さん、隣はパン屋さん、今でも目に浮かびます。私共も八十五歳という年齢になり、今さら世の移り変わりに目を見張

ります。都立竹早高校卒業のお若い皆様のご活躍を願いつつ終りといたします。

### 同窓姉妹

竹村 宏子  
(高女四十四回紅白・昭和十九年卒)

百周年を迎える筈には親子・夫婦の同窓生コンビも多いと思いますが、私達は三人姉妹同窓生です。長姉は高女三十七回、次姉は三十九回、私は四十四回ですので、一九三二年(昭七)から一九四四(昭十九)の十二年間に同じ校章をつけて過ごしました。

この度、会報委員会からのご依頼を受けてお互いの思い出を手繰るうちに、日常の憂さを忘れて楽しい会話が弾み、連帯感が蘇りました。この時期は国策によって戦争への道をひた走り、大きく揺れ動きました。長姉(福田燿子)は五・一五事件、二・二六事件のラジオ放送を聞き、次姉(染川圭子)は日中戦争の南京陥落祝賀の旗行列に参加したこと、私は三年生二期の試験日早朝に、第二次世界大戦突入の臨時ニュースを聞いた時の緊張感を忘れません。燿子は開戦前に新婚の夫を報道記者として南方戦場に送り、次姉は在学中の裁縫の授業で、傷病軍人の白衣や軍隊階級の襟章を縫ったといひます。私の時代は青少年学徒に賜わりたる勅語、寅年の千人針、篋会四十周年と重なった国威昂揚の紀元二六〇〇年祝賀(昭十五)、翌年の開戦で敵国語として英語が選択授業になり、体育の時間は薙刀、バケツリレーの防犯と担架の救助訓練が加わり、毎月朔日の日の丸弁当、モンペ姿の勤労動員が続く中で、理科系進学以外は、女子挺身隊の徴用で二分され卒業式に全員が揃いました。国の外地の戦況を十分に知らされないまま、坂を転がるよう

せる努力と、工夫と頑張りで過ごして来た三人三様の生き様を、尊重し補いつつ竹早の思い出を胸に、合わせて二百三十一歳！一病息災、健在です。

### 人工臓器研究に懸けた人生

山下 明泰  
(高校二十八回・昭和五十一年卒)  
湘南工科大学  
工学部材料工学科助教

(はじめに)

竹早を卒業後早大に進学した私は、卒業研究で人工臓器と出会いました。その後病院の研究、米留学、帰国後の教職生活を通じて、一貫して生体を工学の目で捉える研究をしてきました。本稿では私の研究生活の顛末をご紹介したいと思います。

(身近なところに人工臓器が?)

人工臓器とは生体の機能の一部(または全部)を、一時的に(または半永久的に)補強(または完全代行)するための装置と定義されます。ですから眼鏡、松葉杖、入れ歯など日常生活に不可欠な道具もまた、広義の人工臓器ということが出来ます。

(人工臓器の研究と私)

私は人工腎臓、人工肺、人工肝臓などの研究をしてきました。これらの装置では、血液中に溜まった老廃物や炭酸ガスを取り除くために膜を使います。以下、人工腎臓を例に考えてみます。

に敗戦に向かっていったのでした。その後の終戦、戦後を通して悲しい辛い思いで生き抜かれた方々を思うと、今では死語となった事でも次代に語り継ぎたいと話合いました。この多難な時でも竹早は先生方に支えられた学びの場でした。街には軍歌が溢れていましたが、音楽会など行事では一流の香り高い芸術に触れ、心を癒し豊かな人生を手にする基礎を学びました。槍岳北アルプス縦走をした燿子と、燕岳、立山連峰、西穂の山々に親しんだ私は、田淵先生から鹿沼先生に引継がれた自然を愛する竹早アルピニストの誇りを共有しています。

こんなに厳しい時代でも、いつも明るさを忘れない女学生でした。圭子はバレーボールの花形でしたから燿子は「圭子の姉」、私は「圭子の妹」とされていきました。質実剛健の校風そのものの燿子は、家でカマボコと云われた勉強家で、下の二人はその傘の下にいました。圭子は燿子の裁縫の宿題をこなし(先生御免なさい)見返りに英語をはじめ各先生の出題傾向を伝授され、大いに相互扶助をしていたといひます。ところが私の制服は二人のおさがりで、夏冬一着ずつを格好よいヨシザワで新調した時はとても嬉しかったものでした。小さな洒落に響くスカートやブルマーを褒めしする方も姉に教わりました。学校の様子を姉達の会話で耳にしていた私は、先生の口癖の「……ですわね」を時間中に教えたり、上級生の噂話にも精通していました。敬愛する先生、憧れの上級生の姿を目で追いつながら、犬走の昼休みは明るい笑い声に満ちていました。先日もお互いに胸をときめかせたS(お姉さま)の話題ですっかり若返った思い出でした。「贅沢は敵だ」で育った私達は、物を捨てられない共通の性を持つものの、世情にもまれながらも子育てと仕事を両立さ

## 関西箕会

会長 河合 道子

関西箕会よりお便り

箕会の皆様、お元気でいらつしやいますか。遂に今世紀も残すところわずかになりました。健康に留意して御一緒に新世紀を迎えましょう。そして、母校も百周年を迎えます。一世紀百年は、一口に申しても並々ならぬ時の流れと存じます。日本は明治以後、戦争ばかりやって参りました。私共も少なからずその被害を蒙つて来た世代ですが、どうぞ新世紀は人々の安定した暮らし、穏やかな時の積み重ねが望ましく思います。その為にも、今年は準備の一年と考へ、たゆまず力を併せて参りましよう。

昨年十月十一日、秋晴れの大阪城公園の「ホテル大阪KKR」で関西箕会の総会を開きましたところ、城戸崎会長、小山豊子副会長をはじめ、母校・坂原富美代先生他多数の御出席を賜わり、NHKのテレビなどでお馴染みの脇田修先生の御講話も熱が入って、和やかに閉会致しました。皆様方に厚く御礼を申し上げます。新しい時代に向け、この和やかさこそが、一番の糧と、役員一同心にしてみte感じ入りました。

本年は場所を京都に移し、「八坂神社常磐新殿」での開催を予定しております。"ぎおんさん"と愛称され

る当神社は、四条通りの東正面にあり、御承知の方も多い事でしょう。祇園祭はこのお宮さんの祭礼です。新しい宴会場での総会は、又格別の趣があるかと考えます。

爽秋の一日、是非京都へお出掛け下さいませ、お待ち申し上げます。

関西箕会総会御案内

時・平成十一年九月二十六日(日)

午前十一時〜午後三時

所・八坂神社常磐新殿

京都市東山区祇園町北側六二八

電話〇七五―五二五―八〇八〇

会費・七千円(当日)

終りに皆様方の御健勝をお祈り致します。



## 湘南箕会

会長 松本 紀子

今年、平成十一年(一九九九)は、鎌倉に幕府を開設し、中世東国武家政権の基礎を固めた源頼朝が、正治元年(一一九九)一月十三日、波乱に満ちた五十三年の生涯をとりてから八百年の節目の年ということで、鎌倉を中心にくかりの社寺で、数々の記念行事が計画されております。往時をしのぶ時、由比ヶ浜に打ち寄せる波の音に、谷戸を吹き抜ける一瞬の風に、今も昔も変わらない悠

れた後、この資金で林間施設八ヶ岳寮を建設、建設費の不足分は学校債を発行してこれに当てています。

学校長を理事長に、教職員、PTAから選出された理事、評議員によって協議が重ねられ、それに同窓会の協力によって、設計を故吉村順三氏、施工を清水建設によるセミナーハウスが建てられたのでした。事業の大変さを思うとき、次代を担う青少年の育成にかける熱い思いとパワーに頭が下がります。

当時ご尽力下さった小野政吉先生は、「青春だったよ」とおっしゃいます。学校紛争があり、PTA解散、学校群などの教育行政の変化、校舎建て直し二回、時代の波間に八ヶ岳寮は置き去りにされていったのでした。老朽化した建物は、前理事長によつて一九八五年改修工事がされましたが、引き受け手がなく、成り行きで、私を支えて下さる有志の方々に維持運営に当たって頂きました。当初はお預かりものと思っていたのが十三年になります。

運転資金も、助成して頂ける組織もない中で、微力ながら自分たちの頭も時間もそしてお金も持ち寄りしました。そして得がたい経験と友情を育む事ができました。

当財団の監査をお願いしている高女四十二回の小口郁子様(お父さまが上條農園をご寄付なされた)は、「同窓の人たちが中心になつて力を

合わせて運営していることがすばらしいのよ」とおっしゃって下さいませ。

しかし、これからどうしようかと事あるごとに思います。人も建物も組織も時間をどう受けとめていくのでしょうか。でもこんな世の中だからこそ「八ヶ岳寮」の存続の意義があるのではないのでしょうか。

自由空間として、皆様にもっと活用して頂きたいと思ひます。そして多方面にわたつてのご支援をお願い申し上げます。

### 賛助会員募集中

竹早会の活動に賛同下さる方。

八ヶ岳寮を愛する方ならどなたでも入会できます。

年四回ニュース発行

年会費一口三千元

郵便局振替口座

(財)竹早会

〇〇一六〇一五一九七二二二

お問い合わせ先

(財)竹早会事務局

〇三(三九四三)二四二五

東京都文京区千石

二二四一―一〇二



この度、同窓会誌会報「篁」に寄稿の機会を与えて頂きましたことに感謝いたしております。

さて、私は昭和十六年四月から十八年九月まで、僅か二ヶ年半のご縁でしたが、広島文理科大学卒業と同時に赴任いたし、印象も一入強く、人生の出会いの重要さを今もってしみじみ痛感しております。ここに五十余年前をふり返り、公私にわたる思い出の一端を述べさせていただきます。

当時は昭和六年満州事変以来の特に東洋における国際情勢が緊迫して学校教育も一層の緊張感をおぼえました。昭和十六年十二月八日真珠湾攻撃はご承知の通りであります。赴任最初の年でしたので未熟な私にはなおのことでした。六月十四日、橋田文部大臣が視察に来校され、私は五年生の公民科授業中、教室に入られそれも教壇側でしたので身が引きしまる思いでした。又、その年十二月二十三日、学芸会にて五年生の有志八名が「戦時下の台所風景」(公民科劇)を開戦後間もなく演じたことは特に印象深く、きつと当時の生徒の皆さんもご記憶に強く残っていることと追想しております。

日米関係がますます激化し、昭和十七年四月中旬、土曜の午後でした。私は女師の陸上部長をしており、放課後必ず陸上部員と練習しましたが、突然空襲警報が鳴り、ラジオで大本営発表「B29襲来」を告げました。当時の加藤校長が消火準備を指示され、陸上部員とバケツ、消火道具をもって構えました。しかし被害もなく、早稲田大学方面へ去つたとの報道。これが日本本土に対する第一回の空襲だったかと思えます。戦争が身近に迫って来たことを痛感しました。教室の授業でも一層緊張感をかきたてました。時々、私は教室で「海ゆかば」をうたつて皆さんに私の気持ちを訴えたことがあります。

昭和三十年四月のある日、私は国語教師として、希望と不安との複雑な思いで、初めて竹早高校の校門をくぐつた。よく晴れた日で、玄関前に高くそびえ立つヒマラヤ杉と、品のいい制服を着た聡明そうな女子生徒の姿が印象的だった。私、二十四歳の春であった。爾後、四十四年、生涯一國語教師として、六十八歳の今日を迎えている。

教師という職業に携わった者は、若い日かと思いつく時、なつかしさと、恥ずかしさと、恐ろしさとが入り交じった、奇妙な感情にとらわれるものだ。教師も年齢を重ねるにつれて変化していく。若い未熟な自分をのあたりにしていた教員たちに、年月を経て会うことは、この奇妙な感情にとらわれて会うことに一種のためらいすら感じるものなのだ。今、四十年振りに算学会報からご連絡をいただき、なつかしさとためらいとで遅々として筆が進まない自分をもどかしく思う。

ともあれ、竹早高校は国語教師としての私の出発点であった。社会的経験に乏しく、学力もなく、あるのは情熱だけだった二十四歳の私を、一から導いてくれた。学識経験豊かな諸先生たち、優秀な生徒諸君に囲まれて、毎日毎日、教員としての練成の場であった。現在の荒廃した教育環境とちがって、設備面などは乏しかったが、教育の場としてのロマンと知的好奇心と常識としての規範があった。教壇に立つと未熟な私でも、非常に楽しかった。

当時の竹早高校には、個性あふれる先生方がたくさんいらつしゃつた。ライオンもおればトラもいる、ウサギもおればタヌキもいる。それぞれの個性に分かれていても、それぞれに長年培ったバックボーンを持っておられた。生徒は、自分のそれぞれの傾向に合わせ、先生を選択できた。個性的だけに会議などではいさかかも絶えなかつたが、聞いていてふき出すような面白さもあつた。

当時は学校行事も今日のようなレクリエーション気分でなく、すべてに訓練的意味が重視され、例えば当時、毎年実施された千葉勝浦海岸の水泳合宿も「海洋訓練」でした。他方、戦争が激化するにつれ、男子の学徒出陣が多く、現場の学校の先生方にも召集令状が参り、昼食時に応召の先生の激励と送別の会があり、お酒で乾杯がありました。私は酒が体質に合わず、すぐ顔が真っ赤になり、午後の授業に出ると酔つ払っているじやないかとひやかされたこともあり、又、私は九州佐賀の生まれです。特に「サ行」音が標準語の皆さんには、違和感があり、当時は授業中何かにつけ、世界の用語が多く、その

## 竹早の思い出

藤田 政雄

(公民・昭和16年～昭和18年)



の言葉を軽く低く発音するという引け目がありました。

話は変わりますが、前述、私は女師の授業も兼務し、学級主任は女師だけでした。クラブ活動は陸上競技部長であり、昭和十七年七月文部省主催全国女子師範学校大会(明治神宮外苑競技場)に部員が四百米リレーに出場し、第三位になったことは今もなお強い感慨をもっております。

以上、とりとめもなく公私にわたる思い出を述べて参りました。当時、出合った皆さん、お嬢様方、私も八十七歳を迎えようとしておりますが、皆様もすでに古稀をすぎておられると思

最初の授業は、通称「天国」、たしか二年E組・F組だったと思う。学級増に伴って屋上に仮設したバラック建て教室だった。大学院時代、「芭蕉発句」を学んだ関係で、教科書そつちのので、加藤徹郎「芭蕉発句」上下二巻を一学期かけて読破したことを思い出す。毎日ガリ版を切り、手廻しの輪転機でインクだらけになりながらプリンを作っていた。こんな授業によく生徒諸君がついてきてくれたと今にして思う。

数年前、昭和三十七年卒の三Cクラス会が旧算会館で催され、担任だった私は久方振りに出席した。その席で、ある卒業生が、「先生、私たちは授業でこんなものを読んでいたのですよ」と言っ

## 国語教師として原点

竹早高校  
国広 功

(国語・昭和30年～昭和53年)



て文庫本一冊を見せてくれた。萩原遼太郎「郷愁の詩人と謝蕪村」である。行間にぎつしりと授業中の書きこみがしてあった。そのころ予備校その他受験指導で多忙を極めていた私は、鉄槌をくだされたような衝撃を受けた。

「ああ、私は若い時、こんな本格的な、ロマンチックな国語の授業をしていたのだ。それなのに今の私は……」ついで来てくれた生徒諸君もえらかった。しかし私にもこんな時代があつたのだ、と竹早時代がこの上なく懐かしかった。

古典文法の授業も忘れられない。大正時代、のちに著名な国語教育学者となられた先生に、あじけない文法の授業法を徹底的に指導された。「せ・ト・ン・き・し・しか・トン」と、○の部

ます。

私は常々、「人生は出会い」と言っております。対人関係だけでなく、対時代、対自然、等々。私が竹早の学園に、皆さんに、しかも緊張した競争中に合つたのが、その後の私の人生を支配していると思っております。

その後大阪第二師範学校、大阪学芸大学、神戸女学院大学、近畿大学豊岡女子短期大学と、七十七歳まで授業を続けました。東京生活は僅か二ヶ年半でしたが、最も印象強く思い出が彷彿として甦ってきます。当時の生活から「教育とは何ぞや」ということを、深めることが出来ました。特に、教育愛の構造について新しいあり方を学会に発表出来たのもその一つです。私は障害児教育、幼児教育を専門として来ましたので、特に人間の本質について常に関心をもってきました。教育愛の契機として、人間愛(フィリア)をとりあげたのも、能力、身分、性別、職業、年齢の別なく人間は平等であることを信じるからです。当時は戦後と異なり、障害者(児)は蔑視され、男女差別、職業婦人さえ軽視される傾向がありました。当時、第二高女と女子師範とは頭髪の形が区別されていました。女子師範の生徒は髪をうしろで二つに束ねていました。それに抵抗を感じた生徒もあり、帰途校門を出ると結んだ髪を解いた人もありました。当時の社会における女性に対する職業感がそうさせたのではないかと思います。しかし校則は厳守されました。戦前と戦後とは隔世の感がありますが、今はなつかしい思い出の一つです。

竹早高校は来年初百周年を迎えられますが、職員、在校生、卒業生の皆様にはますますご健勝で社会のためにご精進、ご活躍のほどお祈り申し上げます。

分をトンと言つて、一種のリズムをつけておぼえる方法も、この先生から教えられた。他愛もない、ちよつとしたことだが、こうした工夫も教授法には必要だということも知った。

文化祭、クラブ活動での思い出も多い。先生方出演の「地蔵経由来」は先生も楽しかったし、生徒も喜んだ。また、私が初めての担任だったFクラスで、当時、私が傾倒した島崎藤村の生涯を、詩の朗読・合唱とナレーションで綴った創作劇を、半ば私の強制で行ったことがあつた。「木曾路は山の中である」からはじまって、延々、単調に続く朗読劇、予定時間を過ぎてもいつ果てるともなかった。じつと真面目に聞いていてくれた生徒も、倦きてきて、野次一声「藤村、早く死ね！」当時の生徒諸君は、かくもすばらしかった。

軟式野球部の顧問をしていた私は、熱狂的に活動を支援した。しかし、狭い校庭で、各方面に迷惑をかけることも多く、諸先生からお叱りを頂戴した。若気のあやまちというか汗顔のいたりだが、十四年間の野球部員の多くは、今に至るまで交際し、私にとってよき生涯の友となつてくれた人も多い。かくのごとく、竹早高校は、若い私を自由に、好き勝手に、教師として育ててくれた。嫌なこと、苦しいこと、すべて、往時茫茫として消え去り、よき時代の、よき教育の場のみが甦る。

最後に、私の消息。十四年間の竹早高校を終えて、新設校の国分寺高校に三年、戸山高校に十一年。五十三歳の時退職し、旺文社ラジオ講座講師・編集顧問・代々木ゼミナール講師を経て、昨年すべてを引退し、執筆活動に従事している。竹早高校で恋愛結婚した妻も元気で、読書と執筆に忙しい。悠々自適とまではいかないが、与えられた余生を、国語教師の原点を忘れずに、生き抜いていこうと思つている。

今年の冬は富士山がことのほか美しい日がたくさんありました。二十六年前に鎌倉へ引越してきて以来、富士山、江の島の美しさ、湘南の海の輝き、山と海を息を飲む美しさに変える真つ赤な夕日を眺めるたびに、「ああよいところに住んでいるなあ」といつも思っています。朝・昼・晩の気分転換に柴犬を連れて歩き回る散歩のたびに、感謝しています。春は桜の名所である鎌倉山を、夏は朝早く起きて腰越海岸を、秋は紅葉の素敵な広町の谷戸を、そして冬は富士山がよく見える私の住んでいる住宅地、新鎌倉山の宅地の中を、いろいろのコースをとって楽しんでいきます。鎌倉は東京から一時間以内で来られる観光地でもありますが、くわしいところは観光ガイドブック

### ●日本列島卒業生便り (鎌倉から)

## 卒業してから四十年

平川 みどり  
(高校九回・昭和三十三年卒)

クに譲ります。どこを歩いて歴史があり、物語があり、とても魅力のあるところですよ。

卒業してから四十年以上が過ぎました。平成九年十一月、高校三年間担任をしていた花木先生が、九十三歳の天寿をまっとうされました。先生を、そして教育者を思う時、人に何かを教える人にとって、一番大切なことは、能力がすぐれていることよりも、性格が穏やかで品性、品格が高潔であることのような気が致します。

卒業以来私たちのクラスは、毎年六月ごろクラス会を持ち続けてまいりまし

た。先生はいつも笑顔絶やすことなく、きちんとおしゃべりして四十年前とほとんど変わらぬお姿で、いつもご出席していただきました。

先生がいっしょにやらなくなった今でも食事しながら先生を偲んでいます。九月のお彼岸には、有志で浦和の先生のお墓参りをいたしました。その際もお洒落なフランス料理店で食事をし、クラス会の時とは違う小人数の集まりの会話を楽しみました。

昨年十一月、ちよつとした怪我をしてしまいました。昔だったらなんでもなくすんでいたこと、階段を数段飛び降りただけで、左足の踝の下に怪かったといえ、剝離骨折をしてしまいました。お医者さんは「あと二十年は使う足なので

大事を取りましよう」と、簡易ギプスをしてくれ松葉杖、薬、湿布をもらって帰宅しました。今年にはリハビリも終わって完治しましたが、この間でいろいろなことを知りました。

(一) 骨折はしてはいけないこと。とくに年齢をとつてからの骨折は、リハビリがうまくいかないので寝たきりになりやすい。

(二) 骨折が治るのには、四週間、六週間、八週間、十二歳、二十五歳、三十五歳ぐらいが目安で、自力で完治するのは人によって異なりますが六十歳ぐらいいまです。

### 高女二十一回・大正十年卒

種田 富子

府立第二高女大正十年第二十一回卒、四十五名と記されておりますが、実は悲しい辛いことが起っておりました。卒業二日前に、小学時代から欠席知らずの、お丈夫な健康そのものでいらつした倉林喜美子様が、三月始めの風邪引きが原因で、肺炎を起され遂に永眠されていられたのでございます。一週間程前に入院されたとはうかがっておりましたが、あの倉林様のことゆえ、直に全快されると思ひ込み、もちろん卒業式には御一緒のはず、とのみ信じておりました。週番の方お二人がお見舞にうかがい、「お元氣よ」とお噂を耳にしたのも束の間、二・三日後には急変して、先生と週番のお二人とが卒業証書を持って馳けつけられました。が、「にっこり笑って受け取られたのよ」とお様子をうかがいました。……お掃除当番の時、よく讚美歌をきれいなお声で教えて頂いた事ども、思い出は悲しきつき、あのお優しくかつた倉林喜美子様、御一緒叶わぬ心寂しい卒業式でございました。

そして今年も年女となること八回目。卯年を迎えてみると、たつた三人のクラス、その上、お一人は電話しても「お話は無理ですよ」と、ホームの事務の方に止められ、もうお一人の方は、電話でお声はうかがえますものの、書くことは苦手の御様子、本当に本当に九十六歳にもなると、この様な有様になりますのね。心淋しく、寂しくなりました。

でも有難いことに、一級下の向坂様からお便りを戴いたり、時にはお声も

うかがえたり、本当に嬉しく有難く。何卒、皆々様の御上にも、又降って私どもも十一年でございますように。竹早エコーが益々楽しく、豊かになります様に、心からお祈りさせて頂きま

### 高女二十二回・大正十一年卒

向坂 ゆき

腰折の中から 竹早の思い出を  
ひろつて その一

大正六年四月  
入学を許されし娘ら ほこらかに  
桜咲き満つ校門をくぐりき

大正九年春  
校外授業の日のクラス  
はかまの娘らは野路行きしかな

全校二百四十名  
そろいのたすき  
ときいろのメリンスたすき 時々  
たもとからげし時し偲ばゆ

師を偲ぶ  
矢野ゆき先生(裁縫)  
競争縫 ゆかた四時間いっせいに  
たすきがけの娘 針をきそひき  
しごかれて泣く日もありし 裁縫を  
誇りし娘らの巣立ちゆくころ

母たちは感嘆の声に 師をたたふ  
卒業製作展示はなやぐ  
教え子は きびしきしつけ誇りもて  
嫁ぐ世なりし 時は移りぬ

(三) 病気はなんでもそうですが、初期治療が大切。とくに骨折は若ければ若いほど直ぐつきはじめるので一〜二時間以内に医者に行くことが必要。

(四) リハビリも開始から一〜二ヶ月が勝負。体のどこでも怪我をすると、それをかばつて他の部分が無理をして、補ってくれる。日頃の体全体の鍛練が大切。

(五) 簡易ギプスはあまり丈夫でない。  
(六) 松葉杖が使えるのは(使ったことのない人)六十歳までだそうです。  
(七) 怪我をして、もう若くないということをつくづく思い知りました。これからは怪我をしないように気を付けて、今あるしあわせを楽しめるように、一日一日を大切に暮らしたいと願っています。

六十年間、二世代を生きてきて思うのは、三年間を過ごす高校時代は後の人生を乗り切っていく上での、技を見つめる時間であるように思います。私の精神的なより所である茶道との出会いも竹早高校の茶道部でした。仕事をしていく上で、私に大きな力を与えてくれていた英語も花木先生を通しての三年間に飛躍的にのびました。さらに私の生活に美しい色を添えてくれている木版花葉書の基礎も美術の小野先生の時間の木版の指導でした。

お茶、英語、花葉書の三つを通して、幼稚園の子供から小学生、中学生、高校生、大学生、お勤めの若い方から、中年、老年の方々とは身近に接する機会を与えられています。  
いつまでも柔らかいおやかな心を持ち、宝石をちりばめたような、はつとすような、涙がこぼれるような、暖かい美しい時間、出会いを持ち続けたいと、しみじみと思っています。

### 高女二十五回・大正十四年卒

高木 桂子

二十五回生も、ついに九十一歳となりました。さすがに九十の坂は登りにくく、昨年私が弱りましたので、最後の御奉公と皆様に暑中見舞を出しました。皆様年なりに不調を嘆かれておりましたが、中には尾崎様のように、九條武子夫人設立の寮に入られて修養の時間をもたれ、先頃代表で京都の本山詣りをなさいました。車椅子の生活でも蘭亭序のような立派な書をなさつておいでです。補聴器のよいのを手に入れた河内様とは電話でお話ができました。足がわるくてという右近様、成城の駅までは杖をついてなんとかとおっしゃいますが、私などより上です。「オールド・ブラック・ジョー」をうたっているのよと、懐かしいお話をなさいました。藤末様、学校時代お弱かったのに、今は私達と同じで年賀状では炬達の番人だそうです。雪の福島は如何かと大野様にお電話したら、九十歳とは思えぬお声です。讚美歌をうたっているからとお答えでした。たつた一人のお嬢様を亡くされ、お嬢様とお暮しだそう、さすが信仰深い方と感心致しました。川越様が一年からの御入院ですが、少しずつ快方向かかれ食事もとれるようになったと、本多様も御自宅療養と代筆で頂きました。

さて、お体の不自由な吉田様、十五日には初釜の御亭主をなさり、十五日程のお弟子が集まられたとか、我がクラス一の元氣者佐藤仁子様、冬休みに御子息の旅行に同行し、スペインでフラメンコの踊り、ゴヤの展覧会を満

喫。感激していらつしやいました。終りに九月十二日に板橋妙子様が亡くなられました。入学以来お席も近く卒業後も何かとお付き合ひ深かったのに残念です。そのショックでか私も九月三十日に胃かいようで入院しました。が、お蔭様でこの世に戻りました。ただ前よりもっと体が不自由になりました。

高女二十七回乙・昭和二年卒

菅 多喜子

何時も算会報を御送り頂き、誠に有難く委員皆様の御骨折りのたまものと厚く御礼申し上げます。私共は昭和二年卒の二十七回乙組で、五十名の同級生も今は死去二十五名、連絡不可能十名と、生存者十三名という淋しい有様でございます。毎年級会を開いて楽しんで参りましたが、人数が少なくなり、数名集まれば幸いと思うようになりました。

あの古き良き時代、随分といたずらっ児だったのに、当時教えて頂いた事等は今も身についており、改めて多くの先生方のご恩を有難くつかしく存じます。

同級の道喜美代様は、戦後のきびしい状況のなか、再度アメリカに客員研究員として留学され、昭和四十八年から八年間、日本女子大学学長を務められました。在学中の道様はスポーツ万能で、短距離、走高跳、そしてバスケットボールの名ガード、私共は応援に一所懸命。その他お一人お一人の思い出は尽きませんが、「ワン・オブ・ゼム」の精神で本当に充実した良き学校生活でございました。

御若くして逝かれた方、定命を全うされた方々を偲びつつ、残余の私共は日々を明るく平安に過ごしたいと念願しております。

ります。又、算のますますの弥栄を御祈り申し上げ、重ねて委員皆様の御世話様を心から厚く御礼申し上げます。

高女二十八回甲・昭和三年卒

杉 あき

私共のクラスは、みな米寿を過ぎました。今の竹早(当時は府立第二高女)入学は、ちょうど関東大震災がありました。大正十二年でしたから、それぞれ起伏の多い長い月日を過ごして来たことになり

ます。あらためて残る老いの日々を心おたやかに過ごしたいと願わずにはいられせん。ご消息のわかつております方々のことをお知らせ致します。

石田さん(趣味多くお暮らし)、松宮さん(地域のために活躍)、百瀬さん(俳句を勉進)、市川さん、杉浦さん、田島さん、正木さん(旅行をお楽しみ)、中村糸栄さん、粕谷さん、鈴木砂さん、三木さん、赤瀬さん、山下さん、四国の富岡さん、鳥取の中田さん、大阪の吉村さん、皆お元気です。

成瀬さんは、ずっと日舞のお仕事をお続けでしたが、平成九年一月ご逝去。

尚、クラス記録の入っております箱の中にクラス会費の残金(二万二千五百円)が入っておりますので、一部の方々とも相談の上、母校の百周年記念事業に寄付させていただきます。委員のお一人坂原さんより御礼の手紙がとどきました。記念式典は、平成十二年十二月に挙行される予定とのこと。ご報告申し上げます。



高女三十回甲・昭和五年卒

内山 信子

私達二十回生は甲乙合同で毎年一回クラス会を開いていましたが、昨春秋は、湘南の幹事の方のお骨折りで十一月十七日に銀座の「天壇」で開きました。甲組四名、乙組九名で甲組のあまりにも少ないのにびつくり致しました。出席は甲組磯田様、池田様、山田様、内山で、乙組は相田様、木原様、伊藤様、植村様、小島様、鈴木様、沼田様、平田様、村瀬様の計十三名がとにかく元気な顔で集まり、いろいろ語り合つて楽しい時を過ごしました。当日生憎とお身体の具合の悪い方あるいは、お宅では動いていられても一人でお出困難な方、またご療養中の方などでお集まりもだんだんと淋しくなり

ます。でも、甲組の平井澄子様は今も邦楽家として活躍で昨年十一月十九日には芝のABCホールで演奏会を催されました。本当におえらいと思います。

今年私達も昔風に申しますと、数えで八十八歳になりますので、米寿の会をとの声もあり、なるべく気候の良い時を選んでなんとかお一人でも多くお集まりになれたらと願っております。「会」を大事に前向きに生きていきたいと念願しております。

高女三十二回乙・昭和七年卒

諏訪 静子

私達にとりまして今年の干支兎は、還暦から二度目になります。これは早生まれの人で、大半は昨年の虎なのです。

いつのまにか八十半ばとなり、お友達とは七十年來のおつき合いというわけ

す。

私共の乙組は、現在入学当時の半数二十四名が生存しております。この中には元気な人から病氣の方までおりますが、口は達者でも足が不自由とか、ご主人に手がかり、外出不能とかいろいろで、クラス会の案内にに応じて出席出来る人数は、この半数かと思

います。一昨年までは毎年クラス会をしておりましたが、昨年は葛岡八重子様、小野鏡子様、西崎君子様の三人が亡くなられた上、病氣の方が多かつたりで集まりは出来ませんでした。二・三名でお会いしたりしてはいますが、全員に連絡してというのは無理になっているようです。

でも今年チャンスがあればと願っています。

私も昨年神奈川県に移りましたが、東京で集まりがあれば出席するつもりです。

高女三十四回甲・昭和九年卒

岡 茂子

甲組のクラス会は十一月十八日、そ

ろそろ木枯らしの吹き始める頃、東中野の「日本園」で開きました。出席者は青田、川田、野口、牧田、満田、岡の六人でしたが、お部屋も気持ちよく、お料理も老人向きで美味しく、午後のお時を本当に打ちとけて、それぞれ

ほとんどの方々が、友人の近況を懐かしんで下さったことと思います。ただご通知してもお返事のなかった方々が気にかかります。次回は何なりとお知らせ下さい。

高女三十七回紅・昭和十二年卒

福田 燿子

私達紅組は、十月三日に新宿の「綱八つの管庵」で、クラス会を開きました。初秋にしては汗ばむような好天に恵まれて、七十八歳の老女たちが十九名集まりました。

角田泰子さんのお力添えと、三人の幹事さんのお骨折りにより、おいしいお料理をいただきながら、六十年前の乙女の日にかえつて、楽しい半日を過ごしました。そろそろ体力的に個人差

があらわれ、昔のお転婆さん達も、去年はお付き添いに送られたり、杖をたよりにお出になった方が目立ちました。それでも懐かしい友に会いたい一心で、大阪や鎌倉から、お身体の不調もいとわず馳せつけられ、会は大へん盛り上がり

ました。出席者の中には、今でも登山、スキー、

海外旅行へと飛び廻る元気な方もあれば、現役で幼児教育、作家活動、老人医療に献身されている方もおり、美術や音楽等それぞれに興味を楽しまれて

いる方々もおおいでになります。つもる話に時が過ぎ、名残りはつきませんが、来年の幹事を寺本さんと福本さんをお願いして、足許が暗くならないうちに、再会を約して閉会と致しました。

高女三十八回白・昭和十三年卒

瓜生田 俊子

平成十年四月二十日のお昼、久しぶりに紅白合同のクラス会を「如水会館」で催すことが出来ました。

卒業六十周年と喜寿を祝い合つて、紅組十六名、白組十三名が少女の昔に返つて、楽しく語り合いました。

紅組の六人の幹事さんには、本当にお世話になりました。白組は鹿江(高橋)さん、後藤(寺沢)さん、私の三人

が幹事です。仙台から西村(中山)さんが来て下さつて、嬉しいことでした。秋田の菊地さんは、皆に会いたいの

に、上京出来ない残念に思われていましたので、十一月十八日に鹿江さんと私が秋田へ行き、雪景色を見ながらクラス会の話などをして、二十日に帰京

しましたが、とても喜ばれました。クラス会のあとも時々いろいろな形で友人に会うことが出来、嬉しいことです。

プロの画家南(吉田)さんの群炎会員展も、宇野(片岡)さんの絵の展覧会も、松田(朝夷)さんの野草展も拝見出来、皆様の活躍を誇りにしています。



知らせが来ました。十二月二十四日朝眠ったままで安らかに、永遠の眠りにつかれたそうです。

高女三十九回紅・昭和十四年卒

四谷 桂子

「十四竹会」も、全員の方々が喜寿を迎えました。平成十年度のクラス会は四月八日のお昼、中野の「日本閣・オリヴの間」で、高木様、有馬様、稲見様のお世話で、例年のように賑やかに集まりました。桜満開の庭園を眺めながら、美味しい懐石料理に舌鼓をうちました。クラスには、腰や足が弱って参加出来ない方が何人かありますが、ともかく出席なさった皆さんは大変若々しくお元気で、六十年前の第三高女時代とあまり変わりありませんでした。終りには「うさぎ追いかの山」となつかしい曲の大合唱となりました。来年は稲見様、小金井様に幹事をお願い致しました。



さて悲しいお知らせですが、平成十年九月十四日、永らく病氣だった中鶴喜久子様が、「他界なさいました。」ご冥福

す。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。他界なさる方も、年を追って増してまいりましたが皆様どうぞ、くれぐれも健康に気をつけられて、日々をお過ごし下さい。まずは、目前に近づいた喜寿達成とまいりましょう。そして、クラス会には、ぜひ多数出席出来ますように期待しております。

高女四十二回・昭和十七年卒

手嶋(木暮) 實枝子

皆様、お元気でしょうか。また一年経ちました。平成十年を振り返りますと、まず新年会。あと順を追って、二月初島へ一泊の旅。三月に眞寿会。七月にクラス会。九月に北海道へ二泊三日の旅。十月に写真交換会と、公だけでも何回もお会いました。いつも言うことですが、何回もお会い出来るのは嬉しいのですが、その反面、ほとんどお会いしない方、「会いたくないア」と思います。会えばほんとうによく話題がつきなと思うほどよくおしゃべりします。また旅行などでは、ちよつとしたハプニングがあり、これがまた別の楽しみになったりしています。例えば初島では、島流し(翌日波が高く船が出ない、すぐそこに熱海が見えてても)にあつてもう一泊。一日中、車座で、天下国家を論じ、侃々諤々(かんかんががく)笑いくたびれました。北海道行きは、珍しく台風の来ない年だったのに、やっとお目見えた台風が、ドンビシヤリでぶつかり、北上するその台風を追い越して女満別到着。あちらでは台風をお出迎えて、降ったり、吹いたり、かんかん照りやら、楽しくいろいろ体験しました。

を祈ります。

皆様くれぐれもお身体お大切にお過ごし下さって、また元気でお目にかかれませうよう念じております。

高女三十九回白・昭和十四年卒

大津 雅子

年一回、クラス会を致すことにしております。平成十年秋にもクラス会がございましたが、年々クラス会に出席なさる方が少なくなりまして、心淋しいこととございます。今年は是非、皆様多数出席して頂きたいと思っております。

さて今年には悲しいお知らせをせずには思っておりませんが、いつもお元気にクラス会においで下さいました岡本わかな様が、昨年九月に急逝されました。誠に残念なこととございます。心からご冥福をお祈り申し上げます。岡本わかな様(佐藤)

平成十年九月十二日没

高女四十回・昭和十五年卒

稲葉 良子

〇二二九九九四七〇三

卒業当時紅白一〇〇名でしたクラスは外国にまで在住している方々と六十名がいまなお健在で、「活躍」です。

昨年(一九九八年)は、白組のクラス会を六月五日に新宿翡翠宮(中華)で二十名が参加して、盛大に行われたことが白組から報告されました。春のクラス会を見送った紅組は、十月十七日(土)本郷赤門前「本郷佐とう」(鳩山様のお店)に十七名が参加、お友達関係というお計らいで一同すつかり羽を伸ばし、久しぶりに楽しい時を過ごすことが出来ました。そして、紅白組とも遠方からはるばる駆け

でも楽しいことの中に、赤穴(塩谷)様、六本木(横山)様の逝去という訃報に接しました。心からご冥福を祈ると同時に、元気でいる私達は、一層、毎日を気をつけましょうね。



高女四十三回・昭和十八年卒

百竹会

昨年の「百竹会」は五月二十六日童心に返り、東京デイズニールランド近くの舞浜の「ヒルトンホテル」内の王朝で開かれました。三十三名の出席で、卒業後五十五年の歳月を振り返りつつ、楽しい午後を過ごしました。クラス会をかねて一泊されデイズニールランドで遊ばれた方もおいででした。

八月には竹早百周年記念会誌の読み合わせに数名が母校を訪れました。昔の面影はヒマラヤ杉だけになりました。すっかり雰囲気が変わっております。

十二月には山階敬子様が東京女性財団賞を受賞されました。能一筋に励まれ女性能楽師として、始めての「国立能楽堂」の公演でシテ(主役)を演じ

付けました友の心情は、出席一同の旧交をさらに暖め潤し続けました。

今年、三月二十六日(金)開催の再生「眞寿会」の当番クラスに当ります。関係作業運びにつき遺漏の無いよう細心の注意を払うよう心掛けております。



高女四十一回・昭和十六年卒

河野 かづ子

昨年は「毒」の二字で代表されるような、思いがけぬ暗い悲しい事件の年でしたが、今年こそはピョンと跳ねるうさぎ年、二十一世紀も近いこととすし、景気も回復して、良い年でありますようにと祈りたい気持ちで一杯でございます。

去る六月二十三日に、新宿のイタリア料理「ラ・マニナ」で開かれたクラス会は出席者多数、元氣な七十四歳(あるいは七十五歳)でした。三月七日に亡くなられた金指(郡)貞子様の御事が話題にのぼりました。あまりの急逝に、改めて、驚きと悲しみの時が流れました。あまつさえ、年末の十二月二十四日には満川(天塚)俊子様が、重ねて今年の一二月には横山(安藤)房枝様の訃報に接し、ただただ胸の痛み思いでございます。

られ、能楽の世界での女性の地位向上を果たした役割が認められての受賞です。先に平成七年に、金森(朝来野)トシエ様が男女共同参画社会づくり功労賞を受賞。城戸崎(森田)愛様も放送開始七十周年記念に料理番組に貢献され、NHKより感謝状を受けられました。金子(田中)日出子様も鎌倉彫アカデミーの教授として活躍され、月一回「百竹会」の仲間もご指導頂いております。

戦前戦中を通し竹早を巣立った私共は、たくましく生きて参りましたが、これからは緩やかにまいりましょう。八月二十九日に鳥山(菅野)和子様がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

高女四十四回・昭和十九年卒

戸原 章子

昨年の級会は、足場がよくて膝・腰等の痛み方も出席しやすい会場を保坂さんと春から探して、日本橋三越で十月二十日に開きました。お天気にも恵まれ、久しぶりの浜中さんをはじめ、三十六名集まって楽しく過ごしました。故・日下先生の奥様(数中先生)から私達が四年生の時に描いた色紙を、夏に三十八枚お送りいただいたので、それぞれお手元にお返ししました。戦争以来今日まで、絹の色紙を無疵で保管して下さった先生ご夫妻に一同心から感謝申し上げます。母校百周年記念資料は、中村さん、磯田さん、竹村さんから拝借しました。長年リウマチでお痛みの池田さんが、八月に頸椎を痛めて瀬田のリハビリ病院に入院なさったそうです。不明の河室和子さん、沢登百合子さん、富田和子さん、ご連絡下

さい。次回は浜中さん、浅野綾子さん、堤さんです。よろしく。  
記念誌「たなばた」の発行について  
都立第二高女専攻科・昭和二十年卒業生のクラス会「たなばた会」では、平成十二年の竹早高校創立百周年を機に、戦時下の特別な状況での忘れがたい思い出を綴った記念誌を編纂したいと思いが、貴重な記録としてご活用頂ければ幸いです。

高女四十六回・昭和二十年卒

谷口 幸

平成十年度の「若竹会」は十一月九日、「帝国ホテル・レインボールルーム」でいたしました。幸せなことに、私達の担任をして下さいました小林、吉田両先生はお健やかに経過しております。本年、吉田先生は満九十歳を迎えられ、私達も満七十歳の節目の年。当日、両先生がご欠席されましたのは残念でしたが、四十七名もの方々に集まっていたいただきました。

先ず両先生のご長寿とご多幸をお祈りして乾杯。次に故安永道子さん（元国会図書館勤務、正五位勲五等宝冠章を贈られる）が心をこめて起草された会の規約を承認、施行を決定しました。食事はバイキング形式で、幹事は少々心配しておりましたが、皆様研究心旺盛に多くの料理に挑戦され、楽しい雰囲気を感じ上げて下さいました。席上、在校時の作文やお題の詠草をのせた『竹早』のコピーが配られ、日本画優秀作品が回覧されて、戦局が厳しくなる前の、質実でしかも優雅であった私達の四年間の学園生活を偲びました。

最後に悲しいお報せですが、平成九年十二月に西元正枝様が、十年四月には駒崎富美子様がお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

高校四回・昭和二十七年卒

郡 佐代子

平成十年は「紫竹会」（竹早高校四回生の会の名称）としましては、いろいろの動きがありました。八月には創立百周年記念事業通信取材に、東京より坂原先生はじめ、三名の先生方が芦屋の八木様宅にお見えになり、関西在住の卒業生へのインタビューがありました。四回生としましては、府立から都立へ、併設中学校、新制高校、初の男子入学、男女共学、創立五十周年記念事業、縦割りホームルーム等、教育制度の変遷期にあった竹早についてお話し致しました。この記事は、百周年記念事業通信十一号に記載されています。（出席者小林、前川、郡）

そして十月十一日関西真会総会が「K Rホテル大阪」において開催され、関西紫竹会」七名が幹事を担当致しました。大阪城を眼下に見下ろす絶景を、馳走に、約五十名の同窓生方をお迎えし、楽しい一時を過ごすことが出来、心より感謝しております。

また、飯高正子様のご尽力により、十八年振りに新名簿を作成し、先生方、海外在住の方々をはじめ皆様に発送し、大変喜ばれました。飯高様に心より御礼申し上げます。

平成十一年二月、京都四条大橋畔の創業三百年、坂本竜馬も逗留した料亭「ちもと」において、関西開催「回目」の「紫竹会」を開催致します。「おかみと語るお雛様」の案内に多くの方々から出席のお返事をいただき、今からワクワクして

私達が学舎を後にしましたのは、三月十日の大雪襲の直後。それぞれが乗り越えて来た道は、決して平坦なものではなかったはずですが、そして五十余年後のこの日、一堂に会して和やかな時を過ごし、改めてよき師、よき友に恵まれたことに感謝いたしました。

高女四十八回・昭和二十三年卒

白鳥 洋子

平成十年七月五日に、恩師塩崎佳子先生が急逝されました。十二年間もコーラスの指導をして頂いておりましたので、大変淋しくなりました。先生は一年位前からお休み勝ちになられ、同級生の出口さんに代って頂くことが多くなっておりまして、コーラスは先生亡きあとでも続けております。

さて三月には、府二女会（続算寿会 仮称）で急遽たのまれて歌いました。毎月一度の練習以外に、五月には埼玉県嵐山国立婦人会館で合宿しました。二十名参加。幹事は谷・深山。平成九年のエコーに欠報しましたが、最後の算寿会では、前年信州フェローズで合宿練習した成果を発表しました。平成十年の級会は十月七日六本木のレストラン「フランセUNO」で行いました。幹事阿部、黒田、安田の尽力で過去最大四十八人集まり、借り切りの会場は、割れんばかりの賑わいでした。平成九年には九月十六・七日に京都で級会を開催しました。四十七人集まり、大覚寺や花の寺等を回り鞍馬山にも行きました。幹事関戸、福井、尼留、小西、小路、森下、白鳥でした。平成十年は生前活発な社会活動をなさった藤田さん、藤井さん、芹沢さんの三人が他界されました。以上平成

います。  
今後は共に紫竹の名にふさわしい高尚な紫の色に人生を染めて行きたいと願っています。

高校七回・昭和三十年卒

山廣 俊雄

最後に悲しいお知らせですが、平成十年二月関忍様、五月栗林尚代様、十二月浜村和子様が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

私達七回生が多勢の皆様のご協力のもと、総会を無事終了してから、早いものでもう二年になります。総会の折りは同期会も兼ねてのことで、四十数名の方々に参加して頂きましたが、総会の運営に、落ち着いて親交を深めるとまでいかず、忙しい同期会となつてしまいました。

二年ごとの同期会開催は今年ということになります。秋にはと、幹事一同、準備中です。今度は我々だけで、ゆくりと楽しみたいと思います。ご期待下さい。

本来ですと、この項は志賀さんをお願いして居りましたが、御多分に漏れず、親の介護で大変とのこと。他にも多くの方々からこの事柄は耳にしています。心置きなくと申し上げる他ありません。

平成十年の級の状況を知らせました。九年・十年の級の状況を知らせました。

高女四十九回・高校二回

町井 松代

平成十年度のクラス会は六月に奥山様のお世話で、「都ホテル東京」で催されました。加唐先生をはじめ、三十七名のご出席でした。遠くからお見えの方々や、卒業以来という方々から近況を話していただいたり、幹事からのクラス会状況報告等々。ピュッフェ形式のお料理も大変美味で、会も盛り上がったところで、今回は何か楽しいことをと企画しておりました福引に移りました。一等は当ホテルのティナー券（三万円相当）一名、二・三等はホテル特製のケーキ（！）皆様かたずを飲んで見守る中、ラツキーなお一人は星野様でした。おめでとございませう。ケーキは何と残り籤を引いた幹事二名でした。（スママセン）まだまだ楽しく女学生気分を過ごしております内に、時間は瞬間に過ぎてしまいました。次回の幹事さんを小平様、丸山様、斎藤様、井上様、吉田様、今村様、再び奥山様にお願ひ致しました。皆様と次回も元気でお目にかかれます日を楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひ致します。

なお、私共の学年では、多賀様、星野様がお世話役を下さってクラス会と交互の年に一泊旅行の「江の島会」が行われるようになりました。因に、今年は一月に初島クラブへご案内して下さいましたので二十名が参加して、好天にも恵まれ楽しく過ごして参りました。

高校八回・昭和三十一年卒

平岩 宏子

平成十年年度算会総会は、私達八回生が当番幹事にて盛会裡に終了させていただきました。伝統ある算会の皆様は総会並びに和やかに懇親会のできる会場探しから取り組み、一年前より幾度も準備会を重ねてまいりました。

六月六日、緑に囲まれた美しい庭園白金台の瀟洒な東京都立賓館（旧朝香宮邸）を会場といたしました。それぞれの同期会が集う雰囲気作りも必要で、皆さんの竹早を懐かしむ方々がご参集下さりまして、新しい試みとして各回毎に集合写真をお撮りいたしました。

「旧竹早校舎は倫敦塔である」とお元気におっしゃる三瓶先生、大先輩高女三十回生二名を含む心暖まる会でございます。

幹事さん達の連携の良さ、遠方より当日だけでも快く応援に駆けつけて下さった方、見えないところで気配りされる方、何よりも八回生男性諸氏の労を厭わぬ姿勢にあらためて頭の下がる思いでございます。幹事はもとより四十余名の同期のご協力はうれしいかぎりでございます。毎年のように同期会を開催し親交を深めてまいりました賜と感謝申し上げます。



高校九回・昭和三十三年卒  
九筆会担当幹事

卒業以来、担任の先生を囲んで各クラスごとに「クラス会」を開いてきたが、学年全体が集う同期会を開いてはどうかという声がある。はいとあがり、大同団結したのがいまから十年前。

高校九期卒業ということ、会の名称を「九筆会」として、二年ごとに開催してきた。昨年十一月八日(日)日比谷・松本楼で開いたのが第五回。われわれの学年から男女とも大幅に増員され、三〇〇名となったにもかかわらず、今回の参加者はわずか四〇名。還暦・定年(既に還暦を迎えた人もいたが)を間近にひかえ、何かと身辺があわただしいこともあってか、回を追うごとに参加人数は右肩下がりに。淋しい限りである。また、九回生が筆会総会の担当学年にあたることを察知(?)して参加を控えたのかと、いらぬ疑念を抱いたりもしたが、二名の理事を中心に各クラス幹事の献身的な協力のもとに、準備はしっかりと進んでいる。

学年では物故者はすでに十四名を数えるが、平成九年十二月に吉岡史隆、平成十年三月に黒川(旧姓・岡野)彬、平成十一年一月に小市(旧姓・松崎)吳子、同三月に田中(旧姓・有泉)浩子の各氏が、それぞれ鬼籍に入られた。つつしんでご冥福を祈ります。合掌。

次回の「九筆会」は、左記の諸君が幹事として運営にあたる。当番幹事はEルーム。よろしくご協力のほどを。

- 「A」長谷川・須藤・桜井「B」三島・井田・小池「C」諸石・笹島「D」駒見・生田・藤井「E」高橋・新井「F」清水・犬飼
- (駒見宗信)

高校十回・昭和三十三年卒  
角掛 隆

ここしばらくは集まりはありませんでした。今年四月二十四日(土)・二十五日(日)に同窓会準備委員で当番幹事九回生のお手伝いの為、我々十回生も応援を出さなければならぬので、打ち合わせを池袋の「鞍」で行いました。出席者は幹事ということ、細かい事は左記の方々にご連絡下さい。

- ◎Aルーム  
高嶋和子 0423(43) 2805  
犬伏慶子 03(53095) 0096  
大城集子 0482(69) 2910  
◎Bルーム  
内山光政 03(3969) 7837  
梶原芽子 0473(51) 9841  
清水美代子 0474(68) 0358  
◎Cルーム  
今永絢子 042(936) 3955  
渡辺尋美 044(966) 6026  
◎Dルーム  
土本俱子 03(3814) 2427  
桜井祐喜子 03(3941) 1657  
豊泉和雄 03(3975) 2936  
高野康雄 0474(64) 5120  
高島紀夫 03(3401) 6323  
◎Eルーム  
岩田健児 03(3950) 6569  
関 文隆 03(3550) 3557  
◎Fルーム  
山本英輔 03(3918) 7605  
山本節子 0467(25) 1964  
林 幹男 0487(69) 3232  
小林賢一 042(575) 7445  
渡辺節子 0473(74) 2003
- (順不同・敬称略)  
※来年は私達が当番幹事に当たります

高校十一回・昭和三十四年卒  
村山 真砂子

平成十一年二月十二日、文京シビックスカイレストラン椿山荘にて、高校十一回卒Eルームのクラス会が、宮尾先生をお迎えし、初めて、四十年ぶりに開かれました。

宮尾先生が広島より御上京の機会に合わせ、池田(三鬼)さんが企画して下さいました。

遠くは北海道、四国から遠路駆けつけた方々もあり、二十四名(男十一、女十三、うちDルーム二名)が集りました。先生は八十一歳にして、御顔の色艶も若々しく、ある出席者の言葉を借りれば、四十年前より美しくなられ、最近仏語三級を取られた由、今も二級を目指し勉学に励んでいらつしやる御様子には、一同感動いたし励まされました。

御話が弾み、昔の個性は変わりなく、思い出が蘇り、先生共々、楽しい一時を過ごしました。

四十年の年月が与えてくれた人生の経験が自信となつて、各々の顔に勲章の様に輝いているようでした。

これより前、平成十年十一月二十九日、十一回卒Aルームのクラス会が、銀座「中納言」で開かれました。角川先生は御高齢で、欠席されましたが、葉山で御元気に、悠々自適の生活を送られていて、楽しいお集りの記念に、お花をお届けしたとのことでした。

高校三十四回・昭和五十七年卒  
大津 慎二

一月二日、3Bの男子五名が池袋に集合。「今年には年男、年女(早生まれの方)ゴメンナサイ」久々にクラス会でもやろうぜ。」で盛り上がり、次のように決定しました。

- 日時・五月三十日(日曜日)
- 集合・池袋の東武TV前・14時
- 立食パーティー形式(会費五千円程度)でのラフな会を予定しています。
- 出席できる方は、五月十五日頃までにお葉書下さい。欠席の方も、葉書をいただければ、当日出席者に回覧します。3B以外の方も、よろしければどうぞ。
- 連絡先・〒273-0003  
船橋市宮本6-36・26・205  
大津 慎二



吹奏楽部  
佐々木 康哲  
(高校四十七回・平成七年卒)

竹早高校吹奏部OB・OG会は、昭和四十年卒の先輩方を一期生として、現役生への協力を中心に活動しており、今年で三十五期を迎えることになりました。現役生は、毎年春に定期演奏会を行って



昨年、長女が友人たちといつしよに、夏休みの宿題を片づけるために泊り込みに行きました。今でも寮は、竹

高校三十二回・昭和四十四年卒  
田島(高橋) 加代子

一昨年、長女が竹早高校に入学。PTAとなった私は、広報委員の皆さんに、「竹早には八ヶ岳という寮があるのよ。取材に行きませんか」と提案。キョトンとしている皆さんを引きずるようにして、晩秋の清里を訪れました。

暗い(一)高校生活を送った私にとって、寮は懐かしいと感ぜられる記憶に残るほとんど唯一の場所でした。その現状を、この目で見ておきたかったです。

竹早寮は、クラス単位で宿泊した思い出を持つ私たちの世代から見れば、ヒマラヤ杉・時計台と並ぶ、竹早のシンボルの一つです。卒業生の手で運営されている点では、全国にも他に例がない、ユニークな施設なのだそうです。

高校二十八回・昭和五十一年卒  
中島 寿子

早関係者全体の貴重な財産であり、役に立つ存在なのです。もつと多くの方々に知られ、利用されますように。

卒業以来、一度も顔を合わせていない同期の方々、そろそろ子育ても一段落ではありませんか? 今度ぜひ、竹早寮でお会いしましょう!

未来の同窓生の為に  
十年振りにアメリカより帰国し、この十年の間に変化した日本の国と、人々に驚愕させられ、とまどいながらの一年間でした。その変化の中には、良い面、悪い面があるかと思いますが、一番気になる点は、現実を目をそらし、妄想の中に生きる人々が増えたことです。全く知らない人との安易な交際、コンピュータの中のペット達等々、趣味の範囲をこえ、仮想世界で生活している人々が増えていくようです。

最近の物質本位の社会にあって、実は人々は、心のつながりを非常に求めているのではないのでしょうか。しかし、現実の人々とのつながりにつまずき、仮想の中に心のありかを求めているのかもしれない。

さて、久しぶりに同窓会に出会い、考えさせられました。年齢・職業等をこえ、自由に語り合える人々のいる所それが同窓会のように思える今日この頃です。地味ながらも現実の顔の見える人間同志のつながりを、考えてみることも、今、大切なことと思われまふ。皆様、お忙しいこと存じますが、未来の同窓生の為にも、いろいろな意見、情報等、会の方にお寄せ下さるよう、お願い申し上げます。

おりますが、昨年は、第十回を数え、創部も三十五周年を迎えるなど、記念すべき年となったため、現役生からの依頼で合同のステージを持つことができました。演奏会に先立って、人数、各楽器のバランス等は考えずに、全OB・OGを対象に参加者を募ったところ、当日の演奏会には、手伝いの方々も含めて、六十名を超えるOB・OGが集まりました。多人数で練習日数が少ないという苦しい状況でしたが、上は十六期生、下は現役生と幅広い年齢層で、今までになかった交流を持つよい機会になりました。演奏会は現役生を含めて、ステージには百名近い人数が乗り、大迫力の演奏で好評を博しました。

この演奏会を通して、当会の素晴らしい演奏は、現役生の協力に際し、様々な代々のOB・OGが集まる息の長い縦のつながりであると実感しました。

現役生は限られた環境の中で、十二分に力を出してがんばっています。皆様も機会がありましたら、文化祭、定期演奏会に足を運んでいただけたらと思います。

毎年、われわれバレエボール部は、春の総会、秋の定例会と二回の活動を主に執行しております。この会では、昼の部に、現役の生徒達とわれわれOB・OGとの試合を竹早高校の体育館をお借りして、さわやかな汗(汗)をかきながら楽しく行っております。また茶室のほうでは、バレエをなさらない方のための懇親会があり、こちらでは皆さんの時の経つのも忘れ、思い出話に花を咲かせてい

バレエボールOB部会  
大原 賢一  
(高校四十八回・平成八年卒)

また総会では、全員が体育館に集まり、先生や会長のお話をいただき、現役の活動報告と決算などを行い、あつという間に一日が過ぎていきます。夜の部では、先生を交え、OB・OGとの懇親会が行われ、昔の仲間や、先輩・後輩とのお酒が入りつつ和やかに行われております。ただ残念なことに、年々参加者が少なくなっており、もつとより多くのの人に来ていただきたいと思っております。

次回の春の総会は、現時点では決まっておりませんが、六月の後半か、七月の第一週目の土曜日のどちらかになると思います。バレエボールをやりたいという方であれば大歓迎です。お友達と一緒にでも参加してみたいかがですか。お待ちしております。

連絡先・平成八年度卒 大原賢一  
☎〇三三七四六一八二七

音楽部OB会  
関 文隆  
(高校十回・昭和三十三年卒)

昨年の会報にて音楽部OB会の計画を申し上げましたが、皆様からのご連絡が少なく、名簿作りも出来ませんでした。今年初めに先輩幹事と会合を持ち、竹早八ヶ岳寮に一泊旅行という話が出ましたが、まずその前に今年の六月末から七月初め頃の土曜日から日曜日の午後には都内のスナックでも貸切で開こうではないかと結論が出ました。日時場所は総会(六月五日)の会場にて決定の予定です。当日出席出来ない音楽部のOBの方は池田か関のところへご連絡下さい。

池田(自宅)〇四二七九三三三八八七

平成七年度 総会報告

本間 宏  
(高校八回生)

平成十年六月六日の朝は、東京は雨であった。十二時、総会開始。用意した百席の椅子が、不足して追加するほどの盛況であり、質疑も活発で充実した総会となった。

今年の総会は、新入会員(平成十年三月卒業)の歓迎会も兼ねるといふ理事会からの呼び掛けが効を奏して、四名の新入会員代表が出席して挨拶。城戸崎会長から記念品が贈られ、初々しい四人に出席者は惜しみない拍手で歓迎の意を表した。

坂原理事(現母校教諭)の熱の籠った創立百周年記念事業キャンペーンを最後に総会を終了し、若干の休憩時間をとって親睦会に移行した。

乾杯と同時に窓のレースのカーテンを引きあげると、庭園美術館自慢

の庭が、小止みになった雨に洗われた清々しい緑の光を注ぎ込んでくれた。ハイライトは、先生方を囲み卒業回数をブロック別にした記念撮影。

母校創立百周年記念事業に向けてのキック・オフをコンセプトとしたので、懐かしい初期の竹早新聞・生徒手帳・国文クラブ機関誌・同人誌などを集められるだけ集め、拡大コピーと現物を展示するコーナーを設けたが、好評頂けたようである。

また、学校に保存されていない卒業アルバムを当日持参してくださった先輩がおられ、感激した。最後に校歌を合唱して無事親睦会を終了することができた。当番の荒井(旧姓山田)が、ピアノを弾き歌ってテープに吹き込んで当日持参してくれたもの

である。旧校歌(みいつかしこき)の楽譜が入手できず、用意できなかったことは返す返すも残念で、先輩方に調査不足をお詫び申し上げる次第である。

本総会の準備には約一年間を要した。我々にとって幸運だったのは、素晴らしい会場を提供して頂いた東京都歴史文化財団とのご縁があったことであり、会場が決まった時に、成功は半ば約束されていたと言っても過言ではない。

そして、七回生を始めとする諸先輩、会報発送作業に尽力を頂いた九回、十回の諸君、そして世代を越えて協力してくれた二十九回の諸氏に厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。

会計報告 平成10年度

I 会報委員会 準備金精算

- 1) 会報委員会準備金(あずかり金) 100,000円
- 2) 支出

費目	金額	摘要
通信費	5,777円	作業以来発送等
会報発送作業		
弁当代	53,388円	4/25~53名 4/25~39名
飲み物他	10,987円	
文房具	15,135円	梱包資材他
雑費	20,829円	ゴミ袋他
小計	89,116円	
返信用書代金	12,390円	郵便局納付代金
合計	101,506円	

3) 差額 Δ1,506円

II 6月6日総会費用報告

- 1) 参加者数 163名  
内 会員 152名 新入会員 4名  
来賓 18名

2) 収入の部	会費 1,064,000円 (152×@7,000)
	お祝金 84,000円 (5口)
	合計 1,148,000円...①

3) 支出の部	総会費 796,950円	マダム石島贈答板を含む
	美術館入館料 89,600円	(160×@560)
	同上 追加 1,800円	(3×@600)
	旧職員送迎お車代 10,000円	
	弁当代 8,820円	6月22日最終準備夕食
	財団事務局手土産 18,375円	
	筆会総会次第印刷費 31,500円	
	展示用資料コピー代 3,000円	
	写真現像・焼増し代 3,223円	スナップ写真
	同上 14,699円	世代別集合写真
	写真送料 17,616円	同上送料
	合計 997,083円...②	

4) 差額 150,917円 (①-②)

以上の通り報告いたします。

高校8回生幹事 室田容子 本間宏

トピックス

能楽師 山階敬子さん  
(高女四十三回 昭和十八年卒)  
東京女性財団賞受賞

六百年にわたり男性が継承してきた能の世界で、女性として初めて国立能楽堂主催公演で舞った観世流能楽師・山階敬子さんが、今年度の東京女性財団賞に選ばれた。山階さんは一九二五年(大正十四年)に能の旧家に生まれた。「女性は能の装束をさわってはいけない」とされ、山階さんはうたうだけの子方をしていた。戦後の四八年に初の女性能楽師として認定され、九七年に国立能楽堂の主催公演で舞った。小野小町などに能に女性を描いた作品は数々あるが「女性が演じた方が良い」とは思わない。男性が舞うことで夢があるのではないか、女性も伝承の形ができたことを見て欲しい」と話した。  
(朝日新聞より)

関 (自宅)〇三三三五五〇一三五五七  
追伸  
この十年間の内に高校十回卒のOBで佐奈田さん吉村さん青柳さん等の合唱音楽会を見に行きましたが、とてもすばらしく、生き生きと楽しそうに歌っている姿が印象的でした。また十回卒の佐伯さんが横浜三婦人ディナーショーを妻と二人で見に行きましたが、とてもすてきな弾き語りを開かせてもらいました。その他いろいろと活動している方もいらつしやると思いますが、ぜひご連絡下さい。皆さんにお知らせしたいと思っております。:

# 学校の現況

教頭 矢嶋 邦男

竹早高校は、平成十二年には、百周年を迎えようとしています。その間、同窓生は、明治補習科一四九名、昭和補習科一三二名、昭和専攻科七三名、第二高等女学校三二八四名。竹早高等学校一三、四九五名に、平成十年年度の卒業生二四二名を加えて、一三、七三七名。総計一七、三七四名となります。算会が発展・充実することは、大変喜ばしいことです。卒業生は学校での様々な思い出を、それぞれにお持ちだと思いますが、現在の生徒達が、学校で、どのような勉強をしているか、お話ししたいと思います。教育課程は別表の様になっています。

一年生で習う国語Ⅰは現代文2時間、古典2時間の割合であり、事項としては、文章や文の組立て、表記の仕方、文語のきまり、訓読のきまり、常用漢字の読み書きなどです。現在、社会科学は公民と地理歴史の二つに分かれています。公民には、現代社会と倫理、政治経済が含まれます。地理歴史には、日本史、世界史の歴史面と、地理とが入っています。数学は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学Cの六つに分かれています。下記の教育課程表の中で、昔、習った卒業生の方が内容を想像しにくいのは、この数学ではないでしょうか。数学Ⅰでは、二次関数とそのグラフ、二次方程式、三角比、(三角関数の基礎)、サイン、コサイン、タンジェントと言えば、思い出すかも知れません。順列、組合せ確率も勉強します。数学Ⅱの中には、指数関数、対数関数、三角関数、直線の方程式、円の方程式、微分、積分の基礎が入っています。数学Ⅲは、微分積分法が中心です。以前の解析学です。

## 教育課程表

教科・科目	単位数	準単位数	1学年必修	2学年		3学年		備考
				文型	理型	必修	選択	
国語Ⅰ	4		4					
国語表現	2						2	
現代文Ⅰ	4				2			
古典Ⅰ	3			4	3			
古典Ⅱ	3						2~4	
世界史B	4						2	○ 選択 日本史・地理
日本史B	4						2	
地理B	4						4	
現代社会	4		4				2	
倫理	2						2	
政治経済	2						2	
数学Ⅰ	4		4				2	
数学Ⅱ	3				3		2	
数学Ⅲ	3						4	
数学A	2		2				2	
数学B	2				2		2	
数学C	2						2	
物理ⅠB	4			4	3		2	○ 選択 文型・理型
物理Ⅱ	2						4	○ 選択 文型・理型
化学ⅠB	4		4				2	○ 選択 文型・理型
化学Ⅱ	2						4	○ 選択 文型・理型
生物ⅠB	4			4	3		2	
生物Ⅱ	2						4	
地理ⅠB	4			4	3		2	
地理Ⅱ	2						4	
体育	9		3	3	3		2	
保健	2		1	1				
音楽Ⅰ・Ⅱ	3		2	2			2	○ 選択 2学期とも
音楽Ⅲ	2							選択の中から科目選択
美術Ⅰ・Ⅱ	3		2	2			2	
美術Ⅲ	2							
書道Ⅰ・Ⅱ	3		2	2			2	
英語Ⅰ	4		4					
英語Ⅱ	4						2	
英語Ⅲ	2		2				1~2	
リフレク	4					4	3	
ラフティング	4				2		2	
フリスビー	-				2		2	
ドイツ語	-				2			
生活	4		2				2	
食育	3		1	1	1		1	
クラブ	3		1	1	1		17	
H・R	3		1	1	1			
単位合計			34	34	34		1~17	

数学Aには、平面幾何、時差数列、等比数列が入っています。それに新しい内容として、計算とコンピュータが入っています。数学Bには、ベクトル、複素数、複素数平面が含まれます。数学Cには、行列、統計処理などが入っています。理科の物理、化学、生物、地学は、見当がつくと思います。保健体育、音楽、美術、書道もおわかりになるでしょう。外国語のオーラルコミュニケーションは、英会話、リーディングは、英文講読、ライティングは、英作文と考えれば、良いでしょう。それと家庭科は男女必修です。また、二年生から、文型、理型に分かれ、三年生では、選択科目が多くなります。この他に、クラブとして、以下の様なものがあります。

運動部として、剣道、サッカー、山岳、柔道、水泳、卓球、テニス、ソフトテニス、男女バスケット、バドミントン、男女バレー、野球、陸上競技があります。文化部として、英会話、演劇、コーラス、コンピュータ、茶道、写真、吹奏楽、生物、箏曲、天文、美術、放送、化学研究があり、朝練、合宿を含めて、活動しています。それでは、次に、一日の学校生活を見てみましょう。

朝、八時三十五分に予鈴が鳴ります。

第一時限 八時四十分～九時三十分  
第二時限 九時四十分～十時三十分  
第三時限 十時四十分～十一時三十分  
第四時限 十一時四十分～十二時三十分  
昼休み 十二時三十分～一時十分  
予鈴 一時五分に鳴り、午後は一時十分～二時  
第五時限 一時十分～二時  
第六時限 二時十分～三時  
第七時限 三時十分～四時 です。

ただし、原則として、月曜日より金曜日までは、六時限まで、土曜日は四時限まで、火曜日の七時限目に、ロングホームルームがあります。

これが、現在の竹早高校の生徒のおよその学校生活です。

## 理事会報告

平成十年度には、次のとおり理事会を開催した。

○四月十日

- ▽議題一 平成九年度事業報告及び決算報告ならびに平成十年度収支予算について  
對崎俊一副会長から次の説明があり審議のち原案どおり決定した。
- 一、平成九年度から算会会計に総会会計及び報委員会会計を一本化した。
- 二、収支予算については、新会則により入会金八千円、年会費千円として計上した。
- 三、収支項目に百周年記念事業費を計上した。
- ▽議題二 百周年記念事業実行委員会報告について  
坂原富美代理事から次のとおり報告があった。
- 一、記念誌の編集方針を読み易く、読んで楽しい、青春が甦るものとする。
- 二、記念式典会場として、新設の文京公会堂を第一候補とした。
- 三、事業の一つとして、記念碑を学校内に建立することを検討したい。
- ▽議題三 平成十年度総会について  
担当学年委員室田容子氏から、六月六日、白金迎賓館を会場とする準備を進めている旨報告があった。
- ▽議題四 理事、監事の異動について  
次の異動を総会に付議することとした。
- 一、高木美和子、北島末子、鈴木直道各理事の退任と細田裕美氏(高二八回)の理事選任。
- 二、金森トシエ氏(高女四十三回)の監事選任。
- ▽議題五 その他  
新入会員を卒業年の総会に招待することとした。

○九月十一日

- ▽議題一 平成十年度総会報告について  
本間宏理事から六月六日に東京都迎賓館で開催した総会について報告があった。

平成9年度算会会計報告	
自・平成9年4月1日 至・平成10年3月31日	
収入	
前年度より繰越金	16,046,557
入会金	2,032,000
新入会員254名	
総会会費	1,039,000
名簿代金	38,300
特別活動収入金	749,000
(観劇会・新年会)	
会報協力金	2,027,960
広告収入	830,000
受取利息	40,957
合計	22,803,774
支出	
総会開催関係費	905,188
会報発行費	3,243,800
贈呈記念品費	351,347
新入会員名簿制作費	79,800
特別活動関係費	680,211
百周年記念事業準備費	1,000,630
会議費	234,455
通信費	14,440
旅費交通費	52,880
事務消耗品費	7,751
備品購入費	30,240
慶弔交際費	153,686
事務委託費	120,000
雑費	595
予備費	
次年度繰越金	15,928,751
合計	22,803,774

- ▽議題二 平成十一年度総会について  
駒見宗信理事から平成十一年度の総会について、国際文化会館を会場として準備を進めている旨報告があった。
- ▽議題三 百周年記念事業実行委員会報告について  
坂原富美代理事から次のとおり報告があった。
- 一、古い会報の整理を終え、資料のデータベース化が終了した。
- 二、関西算会の高齢委員からの聞き取りと神戸高校百周年記念資料室の見学
- ▽議題四 百周年記念事業募金について  
小山豊子副会長から、一口五千円で募金を行うことについて次回の検討を提案、了承した。
- ▽議題五 その他  
一、理事の選任について  
内山隆子(高二八回) 渡辺篤史(高四十五回) 両氏を選任、次回総会に付議することを決定。
- 二、高木萬里子理事から本年度の会費収納状況の報告があった。
- 三、吉沢とよ理事から、十一月の明治座観劇会の子定につき報告があった。

○十二月十日

- ▽議題一 百周年記念事業募金について  
小山豊子、對崎俊一副会長から提案説明があり、討議の結果、次のとおり決定した。
- 一、一口五千円、目標額三千万円。

- 二、平成十一年一月末までに会員あてに趣意書を送り募金活動を開始する。
- 三、使途は記念碑の建立及び記念植樹とし、二千年春までに完成する。
- 四、発送業務は恵雅堂に依頼。
- 五、担当を小沢悦理事に委嘱。
- ▽議題二 百周年記念事業実行委員会報告について  
坂原富美代理事から次のとおり報告があった。
- 一、当初から昭和二十五年までの五十年分の年表作成が終了した。
- 二、編集方針を人物でたどる百年史に変更する。
- 三、高女、高校各二十五名に原稿を依頼済み。
- 四、記念文庫は約九十冊となった。
- ▽議題三 その他  
一、城戸崎愛会長から関西算会出席の報告があった。
- 二、吉沢とよ理事から観劇会について収支等の報告があった。

○一月二十二日

- ▽議題一 募金について  
一、對崎俊一副会長提案の趣意書、要綱案を討議のち決定。
- ▽議題二 次回総会について  
駒見宗信理事の報告を了承した。
- 日時 平成十一年六月五日・十二時  
場所 国際文化会館
- ▽議題三 その他  
新入生に贈る記念品は例年通り実施することとした。(文責・小山紀)

母校100周年記念事業の成功と萱会の更なる発展を祈ります

# 同窓会 萱会

会長 城戸崎 愛 (料理研究家)  
高女43回生

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

# 関西 萱会

会長 河合道子  
高校3回生

21世紀にはばたく 竹早高校と萱会の発展をお祈りします

# 湘南 萱会

会長 松本紀子  
高女41回生

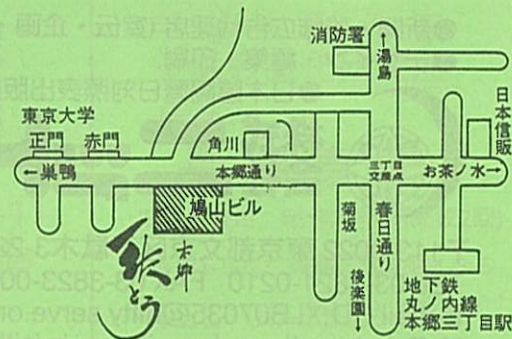
御入会・お問い合わせ 平成11年度幹事 田村美登利 ☎0467-32-0362

魚の好きな人の店 座敷、テーブル

## 本郷 佐とう

昼:11時半~1時45分 夜:5時~10時 (休日:日曜・祝日)  
〒113-0033 東京都文京区本郷5丁目23番12号 鳩山ビル地下1階

電話 03(3816)3224



## 会報通信

●ドラスティックな展開をみせた二十世紀も、余すところあと僅かである。今世紀を振り返ると、「争いの時代」であったといえよう。二つの世界大戦をはじめ、各地域で戦火が絶えることがなかった。わが国もその「争いの時代」の主要な演じるという愚挙を犯したが、戦後五十年余り平和な時代が続いてきた。

しかし、戦中に学校生活を送られた先輩諸氏が、「竹早エコー」の欄で述べられていることを読むとき、一人一人の個人史に、戦禍の影が色濃く投影されていることを知ることができる。

●竹早高校は、第二高女時代から数えて来年で創立百周年を迎えることになる。戦後の学制改革を一つの節目とみなすならば、旧制高女時代と新制高校時代は、ちょうど半々となる。百年近い学校史をみると、その歴史と伝統の「重み」を今更ながら感じるのである。卒業年次も世代も異なれば、学校に対する認識と価値観の相違は当然であるが、「竹早の歴史」の流れの中で、一時期、自分が関わった事実を消すことはできない。つまり、われわれは「竹早の歴史」を共有するとともに、その歴史の目撃

者であり、証人であるともいえよう。

●現在、創立百周年記念事業が、学校と理事会が中心となって進められている。この記念事業の大きな幹として、『百周年記念誌』の発刊がある。学校の歴史と沿革を記録し、次代につなげるべき作業として、記念誌編集委員会が企画・取材・編集が行われている。『記念誌』では、史料に基づいて正確に記述することが求められる。しかし、年次によっては、残存する史料が不足しているため、一貫した内容を記述することが難しいと聞いている。諸氏の中で、本校に関する資料が手元があればご提供願いたい。

また『記念誌』のほかに、記念碑の建立、記念植樹なども計画されているが、これら一連の事業を遂行するためには、多くの卒業生による資金の援助が不可欠である。積極的な募金をお願いする次第である。

●いま、日本の社会は経済をはじめ、各分野において重苦しい閉塞感にとらわれている。この状況をその社会が積み重ねてきた「澱」と断じるか、それとも、次代への「宿題」と解釈するかは、各世代によって受け取りかたは様々であるが、二十一世紀に向けて新たな展望の扉を叩くには、柔軟な発想と困難に敢然と挑戦する勇気が、最も求められているのではないだろうか。

駒見 宗信 (理事・高校九回生)

## 訃報

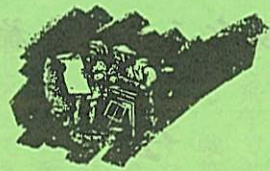
長く母校で教鞭をとられた私たちの音楽の師、塩崎佳子先生が、平成十年七月五日逝去されました。塩崎先生は高女三十三回、昭和八年卒の同窓生でもあらわれ、萱会のためにも多大の貢献をなさいました。ご冥福を心よりお祈り致します。

## ◆会費納入のお願い◆

平成九年度の総会において会則が改正され、平成十年度から会員の皆様に年会費を納入して頂くことになりました。つきましては本会報に同封の払込用紙により会費(2,000円)の納入をお願いいたします。尚、新入会員の皆様は、入会後三年間、年会費が免除されます。会報は、皆様の会費と広告のご協力によって発行されており、ご希望等ありましたら、ハガキ又はFAXでお寄せ下さい。


〒11310022  
東京都文京区千駄木  
三十一丁目十一番六三  
会報編集委員長 角掛 隆  
FAX 03(3823)0064

<p>3月、緊急出版！  <b>〈マッド・アマノの日本再生33の大提言〉</b>          かんき出版 1300円          天野正之          昭和33年卒(高校10回)          東京都北区上中里1-14-2          TEL 03-3910-3051          FAX 03-3910-3058</p>	<p><b>SALAT</b>          本社 兵庫県姫路市北条356-1 〒670-0947          Tel.0792-84-1380 Fax.0792-24-7746          東京支社 東京都台東区台東2-27-7 〒110-0016          日土地御徒町ビル8F          フリーダイヤル0120-036381 Fax. 03-3832-6389</p>	<p>對崎俊一法律事務所          弁護士對崎俊一          昭和40年卒(高校17回)          〒105-0001          東京都港区虎の門1-1-11          マスダビル5F          TEL 03-3506-7941          FAX 03-3506-7943</p>
<p>奄美クルマエビ(株)          代表取締役 上野国衛          昭和33年卒(高校10回)          〒894-0506          鹿児島県大島郡笠利町手花部353-1          TEL 0997-63-2406          FAX 0997-63-1351</p>	<p>聖徳大学附属中・高校          教頭 竹野昌子          昭和28年卒(高校5回)          中野区江原町1-40-3          自宅 TEL 03-3951-8250          勤務先 TEL 047-392-8111</p>	<p>内海 晶          昭和27年卒(高校4回)          〒103-0004          東京都中央区東日本橋2-2-9          TEL 03-3851-8544</p>
<p>友愛婦人会          会長 鳩山安子          昭和15年卒(高女40回)          文京区小石川4-16-13          小石川パークタワー406</p>	<p>茗溪学園 中学校          高等学校          〒305-8502          茨城県つくば市稲荷前1-1          TEL 0298-51-6611(代)          FAX 0298-51-5455          中西美弥子          昭和32年卒(高校9回生)</p>	<p>随時受付          小島齒科医院          (木曜日午後、日曜、祭日 休診)          小島弘子(昭和32年卒・9回生)          〒112-0011          文京区千石4-37-13          ☎03-3941-4392</p>
<p>バイオ理化学実験器械 販売  <b>日京テクノス株式会社</b>          代表取締役 新井 堅司          昭和30年卒(高校7回)          〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-8          ☎ 03-3814-2066          FAX 03-3814-2060</p>	<p>河野齒科医院          ☎3811-5456          〒112-0002          文京区小石川1-16-11          学校医 河野正勝</p>	<p>手袋人形作家          子供の文化研究所          講師          長縄 泰子          旧姓長谷川 昭和25年卒(高校2回)          ☎171-0021 豊島区西池袋4-3-5          TEL 03-3982-6847</p>



株式会社 **ベルク**  
 代表取締役 **高木 昇**  
 昭和32年卒(9回生)  
 〒176-0002 東京都練馬区桜台1-8-2 ニュー桜台ビル  
 TEL. (03) 3994-5661 FAX. (03) 3994-0286

デザイン 編集 データ処理  
 フィルム出力 総合印刷



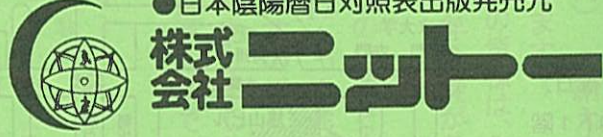
株式会社 **東京プリント印刷**  
 代表取締役 金森延武  
 (昭和28年卒・高校5回生)  
 〒112-0002 東京都文京区小石川5-31-8  
 TEL.03-3811-3314(代) FAX.03-3811-3319

クスリのご相談は

**株式会社 フヂヤ薬局**

薬剤師 小川英康 (昭和40年卒)  
 東京都墨田区墨田5-39-4 TEL(03)3611-6519

- 新聞・雑誌広告代理店(宣伝・企画・立案)
- デザイン・編集・印刷
- 日本陰陽暦日対照表出版発売元



株式会社 **ニッポ**  
 〒113-0022 東京都文京区千駄木3-22-11-623  
 TEL 03-3821-0210 FAX 03-3823-0064  
 E-mail ID:XLB07035@nifty serve.or.jp  
 U R L http://member.nifty.ne.jp/nitho/

◎自分史・詩集・回顧録・写真集・小説  
 遺稿集の出版お手伝いします。  
 ◎ビデオの編集制作  
 ◎インターネットのホームページ制作から  
 プロバイダーの手配・セッティングまで  
 お任せ下さい・・・  
 角掛 隆(旧姓長岡) 角掛昌枝(旧姓三部) 高校10回生・昭和33年卒

# 九篁会



昭和32年卒業同期会  
[高校9回生]

2000年に創立100周年を  
迎える竹早高校の  
さらなる発展を祈ります

平成11年度の篁会総会は私たち9回生が担当します。多くの方々のご参加をお待ちしています。

## イメージで読む源氏物語

一口語訳とは一味違う原文の魅力を伝えた画期的案内書—  
—巻 桐壺・帚木(¥2000) 二巻 空蟬・夕顔(¥2500)

田中順子(旧姓植村)昭和35年卒(高校12回)  
共著 芦部寿江 申込先 (一荳書房 TEL 03-3962-1354)  
田中宅 TEL・FAX 03-3843-3804

篁会の発展と会員の健康を  
越後の里から祈ります

立見 (昭和32年卒・高校9回生)

## 澤田歯科医院

歯科医師  
澤田又次  
(昭和32年卒)

薬剤師  
澤田久枝  
旧姓 青木  
(昭和36年卒)

〒194-0033  
町田市木曾町904  
TEL 042-791-2655

## (有)紅や弁当店

JR上野駅入谷口1分

代表 田中祐三郎  
(昭和32年卒・9回生)

東京都台東区東上野4-10-7  
☎ 03-3841-0063

処方せん調剤

有限会社  
ケンコウ薬局

薬剤師 高橋 孝  
(昭和32年卒・9回生)

〒335-0001  
埼玉県蕨市北町4-9-27  
TEL 048-443-5702  
FAX 048-443-5708

医療法人  
武井整形外科

院長 武井秀丸  
(昭和32年卒・9回生)

☎338-0001 与野市上落合8-1-12  
(大宮赤十字病院前)

TEL 048-855-0663

土地、建物、駐車場、仲介、管理  
.....創業35年.....

神奈川県知事免許(11)1915号  
マルト不動産

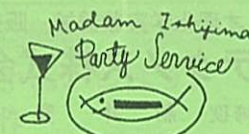
代表者 馬場邦則  
(昭和32年卒・9回生)

〒242-0024  
神奈川県大和市福田2029番地  
小田急線高座渋谷駅前  
TEL 0462-67-0910(代)  
FAX 0462-69-9412

東京海上火災保険(株)・東京海上あんしん生命保険(株) 代理店

有限会社 入江保険事務所  
代表取締役 入江玄耿  
(昭和32年卒・9回生)

〒191-0014 東京都日野市上田135-105  
☎ 042-587-1580  
FAX. 042-042-7709



マダム石島株式会社  
パーティーケータリングサービス  
お弁当・惣菜 販売  
phone. 03-3773-0808 (代)  
〒143-0023 大田区山王4-11-7  
fax. 03-3773-7786